

2025年生まれのアユの資源状況

2025年生まれのヒウオ(アユ仔稚魚)の資源状況について、次のとおり評価をしています。

1. ヒウオ生息状況調査

【目的・手法】

網口1m×2m、長さ8mの網を、図1で示す水域(●)の水深約7m層で水平方向に約1km曳網し、採捕されたヒウオの数で生息量の水準を評価しています。

【調査日】 2025月10月22日、10月24日(1次)
11月14日、11月19日(2次)

【調査結果】

- 全調査水域のヒウオの平均採捕尾数は、第1次調査では45尾/曳網で平年値(133尾/曳網)の34%、第2次調査では46尾/曳網で平年値(68尾/曳網)の67%でした(表1)。
- 全調査水域のヒウオの平均体重は第1次調査で10.5mg、第2次調査で29.6mgと過去の同時期に採捕されたヒウオより小さい傾向がありますが、ふ化時期の遅い小型個体の頻度が高かったためと考えられます(図2)。

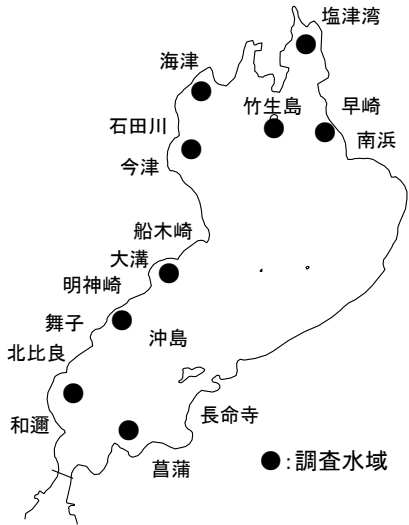


図1 生息状況調査水域

表1 ヒウオ採捕尾数の経年比較(尾/曳網)

	第1次	第2次	第3次
2015	769	70	14
2016	15	194	64
2017	50	6	3
2018	289	87	14
2019	52	70	20
2020	96	49	6
2021	332	431	179
2022	209	19	13
2023	17	13	2
2024	14	45	16
平年値	133	68	19
2025	45	46	

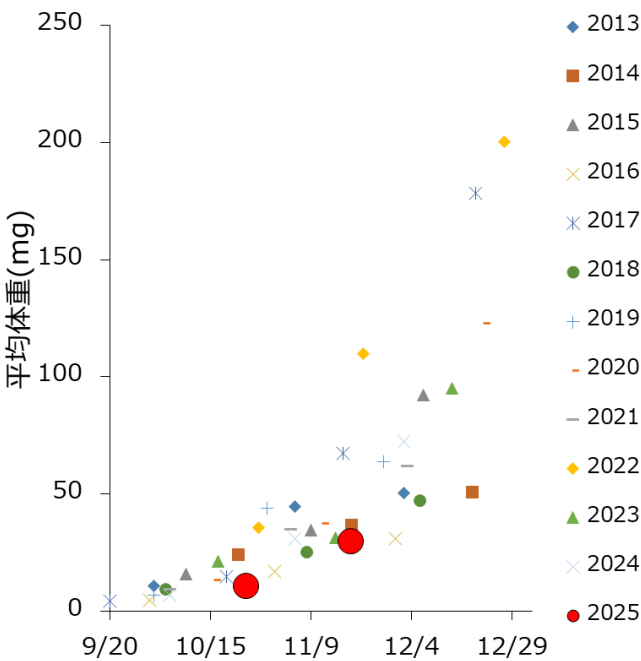


図2 調査日とヒウオ平均体重の関係

※平年値は2015年から2024年までの最大値・最小値を除いたものの平均)

2. ふ化日組成調査

【目的・手法】

生息状況調査と同様の手法で、図3に示す4水域(△)の 深さ約7m層と4水域のうち中央2水域の 深さ約15m層で水平方向に約1km曳網し、採捕されたヒウオから耳石を取り出し解析することで、ヒウオが生まれた時期を把握しています。

【調 査 日】2025年10月3日、10月24日、11月4日、11月19日

【調査結果】

- 採捕されたヒウオのふ化日組成は9月16日～11月2日の範囲にあり、9月下旬に小さなピーク、10月上旬と10月中旬にやや大きなピークをもつ特徴がありました(図4)。
- 天然河川における産卵が10月にふ化をむかえる時期に多かったこと、人工河川からの仔魚の流下ピークが9月下旬と10月上旬にあったことを反映していると考えられます(表2、図4)。



図3 ふ化日組成調査水域

表2 天然河川における産卵調査結果

	第1次調査	第2次調査	第3次調査	第4次調査	第5次調査	合計
調査日	8/25-8/28	9/8-9/11	9/22-9/25	10/6-10/9	10/20-10/24	
産卵数(億粒)	0	10.1	13.9	16.5	0.2	40.7
ふ化時期	9月上旬	9月中下旬	10月上旬	10月中下旬	11月上旬	

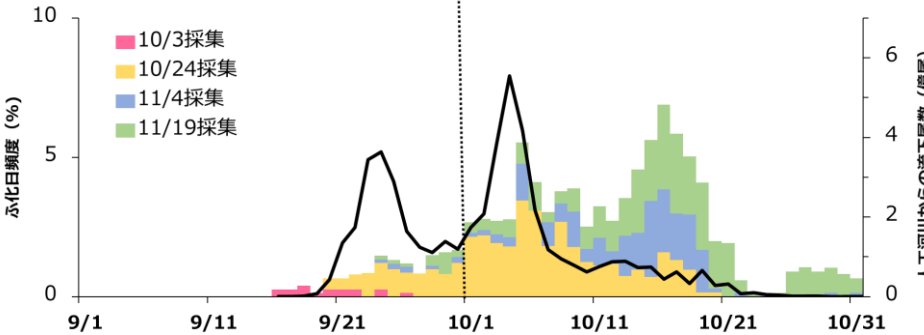


図4 採捕されたヒウオのふ化日別採捕尾数

3. 成育状況調査

【目的・手法】

12月の漁獲に貢献する9月生まれのヒウオの成育状況を把握するため、図5に示す水域(▲)で沖曳網によりヒウオを採捕し、ヒウオの体長と耳石日周輪間隔から1日あたりの成長量を推定しました。

【調 査 日】2025年11月12日

【調査結果】

- 9月下旬生まれのヒウオの10月中の成長量は、2024年の同時期のヒウオと比べてやや大きい特徴がありました。(図6)。



図5 成育状況調査水域

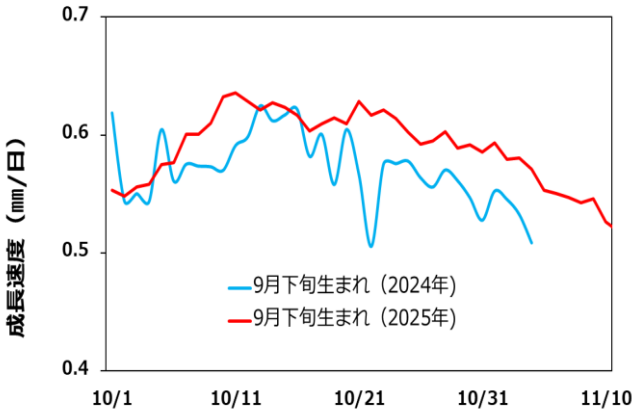


図6 9月下旬生まれのヒウオの1日あたりの成長